平成 29 年度第 2 回丹波市入札監視委員会議事概要

開催日及び場所		平成 30 年 2 月 19 日（月） 丹波市役所柏原支所 2 F 会議室	
出席者	委員	石原 俊彦 （関西学院大学大学院経営戦略研究科教授） 宮本 幸平 （神戸学院大学経営学部教授） 古賀 徹 （弁護士） 福元 俊介 （公認会計士）	
	事務局	鬼頭副市長 中野技監兼入札検査部長 三方入札検査室長 谷口入札係長	
	説明者	くらしの安全課 塩見、青垣支所 古川 山口、市民環境課 井本、 総合政策課 荻野、農林整備課 細谷 島田、障がい福祉課 木村 森田、財政課 澤田、環境整備課 松枝 足立	
内容	1 報告 入札制度について 公契約条例について	・入札制度検討委員会でのランダム係数や変動型最低制限価格の導入等の検討報告。 ・公契約条例の種別等検討報告。	
	2 議事 (1) 平成 29 年度上半期入札・契約状況の報告 対象期間 平成 29 年 4 月 1 日～平成 29 年 9 月 30 日	(建設工事) 入札：85 件 落札率：83.36% 契約金額合計：1,558,007 千円 (業務委託) 入札：95 件 落札率：67.95% 契約金額合計：281,527 千円 (物品購入) 入札：25 件 落札率：75.34% 契約金額合計：156,547 千円 (随意契約) 件数：218 件 契約金額合計：1,063,349 千円 指名停止：16 件	
	(2) 抽出事案に係る入札及び契約 手続き等の審議 対象期間 平成 29 年 4 月 1 日～平成 29 年 9 月 30 日	抽出件数：10 件 (内訳) 一般競争入札：3 件 指名競争入札：3 件 随意契約：4 件	
委員からの質問・意見	質問・意見	回答	
それに対する回答等	別紙 1 (1～3 ページ)	別紙 1 (1～3 ページ)	
委員会による意見の具申又は勧告 (講評)	別紙 2		

別紙 1

質問・意見	回答
<p>抽出事案に係る入札契約手続き等の審議 今回の事案抽出の考え方</p>	<p>別紙 2 の通り</p>
<p>(1) 制限付き一般競争入札 丹く安物第 1 号 消防団ポンプ自動車購入</p> <p>① 消防ポンプ車をくらしの安全課と、消防本部でほぼ同額で購入されていますが、予算額が消防本部は予算でほぼ同額計上されていますが、くらしの安全課は予算が著しく大きいです。予算額は、どのような方法で策定されていますか？</p> <p>② くらしの安全課は予防査察といった業務になるのか？</p> <p>③ 更新か新規追加か？また機能は？</p>	<p>① 金銭的な比較の指摘を受けておりますが、くらしの安全課は 2 台、消防本部は 1 台の購入となる。また機能的にも消防本部自動車は高性能であり、比較できる対象ではない。 また消防本部自動車には、特殊な高性能（キャブス）もあり、値下げには繋がりにくかったと考えられる。</p> <p>② 消防団の管理業務となる。消防団は有事の際には、消防本部と連携し活動することになる。</p> <p>③ 更新となる。ポンプ機能は現存のものと同レベルである。</p>
<p>(2) 指名競争入札 丹青支工第 3 号 青垣総合運動公園屋根付広場照明設備改修工事</p> <p>① 工事指名契約の中で、一番落札率が低い工事。物品購入の要素があるから、落札率が低いかもしれませんが、確認のため抽出。</p> <p>② 効率的に発注するため、設計価格の設定について、検討すべきでないか。</p> <p>③ 設計のために見積りを依頼した業者も入札に参加されているのか？</p>	<p>① 予定価格の設定について、この案件は公共単価が無いいため、業者から見積りを徴収し、参考価格として設計を適切に行っている。しかし本見積りの際は、もっと努力されたと推測する。</p> <p>② 他の案件でも落札が低いものがある。そういった場合は、前回結果も考慮し、設計に反映させるよう努力はしている。</p> <p>③ 施工業者ではなく、メーカーから見積りを徴収しているため、予定価格との差が生じていると推測される。</p>
<p>(3) 随意契約 丹市環工第 1 号 丹波市斎場火葬炉修繕工事</p> <p>① 金額が一番大きな工事</p> <p>② 他の業者への見積り比較はしているのか？</p>	<p>① 随意契約となる工事の特殊性については、火葬炉取扱業者は全国で 3 者。各業者は、火葬炉の構造や設備において、各々特許技術を取得している。よって設置した業者への特命随意契約となる。</p>

<p>③ 人口減に合わせた将来に向けた施設維持の検討も必要ではないか？</p>	<p>② 製品から工法までもそれぞれの特許があり、他社に見積依頼し比較することは不可能である。建設時には、それぞれ比較していたとは考えられる。</p> <p>③ 現在、中長期的な修繕計画を立てており、保守点検を通じて計画の調整や修繕を実施しているところです。</p>
<p>(4) 随意契約 丹企政第 9 号 ふるさと寄付金事務包括支援業務</p> <p>① ふるさと納税の額によっては、かなりの規模になるかと思いますが、発注額の妥当性と当該業者を選定した理由は何でしょうか？</p> <p>② 返礼率は見直しをされているか？</p>	<p>① 丹波市では、ふるさと納税ポータルサイト「ふるさとチョイス」を用いて寄附金案内や申込受付を行っている。同サイト経由の寄付申込に係る包括委託業者は 5 者あるが、市の仕様を満たす包括支援業者は 1 者しかない。 なお同業務は寄付に係る事務を包括的に委託するものであり、寄附金の実績に応じてその対価を委託料として支払っている。</p> <p>② 平成 28 年度に増の見直しをしたところ、寄附金の急増が見られたが、総務省から返納率引き下げの指示もあり、平成 29 年度にも抑えた見直しを行っている。</p>
<p>(5) 制限付一般競争入札 産農整委第 6 号 地籍調査業務その 1 「E・FⅠ・FⅡ-1」</p> <p>① 地籍調査業務をその 1～その 3 までであるが、いずれの工事も数社が最低制限価格で入札してきているが、測量業務も計算しやすいのでしょうか？3 件の工事のうち、3 件とも最低金額を合わせてきているのが 2 者ありました。2 者が多いのか少ないのか。</p>	<p>① 歩掛・単価についても公表されており、また最低制限価格設定基準も公表しておりますので、最低制限価格を合わせてくるのは可能だと思われる。</p>

<p>(6) 指名競争入札 産農整委第 19 号 地籍調査業務その 5 「FⅡ-2・G・H」</p> <p>① 地籍調査業務その 5～7 までは、業務指名になっていますが、その 1～3 までが業務一般です。この違いは何でしょうか？</p> <p>② 産農整委第 6 号の業務にも参加できている業者できていない業者との違いはあるのか？</p>	<p>① 丹波市制限付一般競争入札実施要綱における対象業務として、建設工事 1,000 万円以上・業務委託等においては 500 万円以上と定めており、それ以下については指名競争入札にて実施しております。</p> <p>② 業務内容の違いにより、必要とする資格や技術者も異なるため。</p>
<p>(7) 随意契約 丹障福物第 1 号 平成 29 年度丹波市公用車購入（車いす仕様車）その 4</p> <p>① 見積もりを数社とられた上での随意契約をされていますが、形式的に一般入札でも良かったのではないですか。</p>	<p>① この公用車購入は、車いす仕様の福祉車両を選定しています。この車両は、購入明細物品の中に消費税課税対象と非課税対象の物品が混在しており、一般入札の入札価格の指示方法とは一致しないため、課税・非課税の明細をみて判断できるよう随意契約をしています。</p>
<p>(8) 指名競争入札 丹財物第 19 号 平成 29 年度丹波市公用車購入（その 3）</p> <p>① 公用車の購入を 1～2 台ずつ、何度かに分けて購入されていますが、いずれの契約も欠席者が多いように感じますが、台数をまとめたりすることで入札者が増えたりしないのでしょうか？</p>	<p>① この公用車購入につきましては、更新計画によるものであり、原則、車検前での更新を実施している。まとめて発注することにより入札参加者が増えることもあるかもしれないが、運行管理上に支障が出ると考えております。また細かく発注することが、各地域毎への受注機会の拡大にも繋がっていると考えております。</p>
<p>(9) 制限付一般競争入札 丹環整工第 2 号 一般廃棄物処理施設解体工事</p> <p>① 契約額が高額な割に、指名業者数が 2 者のみ。落札率が低いことから入札は妥当だと考えられるが、そもそも予算額の見積もりにも問題があったのではないか。</p>	<p>① 入札参加資格条件である経営事項審査の総合評定値を単独で上回る業者は、市内 5 者。しかし、施工実績を考慮した場合、基準を超えるのは難しい。そのため、共同企業体を組まれ入札に参加されている。今回、そういった相手方を見つけるのに苦慮された結果が、この参加者数に表れているのかもしれない。</p>

	<p>設計額については、建設物価・積算資料等で積算しており、またそれに無いものは、複数者から見積りを徴し、異常値を除いた平均値を用いており、設計額は妥当であると考えられる。</p>
<p>(10) 随意契約 丹環整委第11号 一般廃棄物収集運搬業務（氷上地域）</p> <p>① 一般廃棄物収集運搬業務を地域ごとに異なる業者に随契で契約されていますので、少なくとも同事業を4社が行うことが出来る状態だと感じます。随契を選択されている理由は何でしょうか？</p> <p>② 協定は、いつまで続くのですか？</p>	<p>① 当業務は、旧町から引き継いだ「下水道の整備等に伴う合理化に関する協定書」第1条に規定する“し尿処理にかかる転廃業の代替措置”として位置づけられています。このことから、適正かつ確実な家庭系一般廃棄物の計画収集を実施するため、協定締結相手と特命随意契約により、業務委託するものです。</p> <p>② 協定に期限はありません。しかし、県下27市が参加している兵庫県都市清掃事務協議会において、検討課題として、将来における競争性の確保についても検討されているところです。</p>

別紙 2

委員会による意見の具申又は勧告（講評）

1. 今回の事案抽出の考え方

- (1) 契約額が高額な割に指名業者数が 2 者のみ。
- (2) 工事指名契約の中で、一番落札率が低い工事。
- (3) いずれの工事も数社が最低制限価格で入札。測量業務も計算しやすいのか。
- (4) 2 部署でポンプ車をほぼ同額で購入。予定価格に差があるが妥当であったか。
- (5) 公用車購入の入札で欠席者が多い。
- (6) 地域毎に随意契約で契約されているが、随意契約されている理由。
- (7) 発注額の妥当性と当該業者を選定した理由。
- (8) 見積りを数社とられた上での随意契約。

2. 総括

適切に事務処理をされていると判断できる。引き続き適切な事務処理をお願いしたい。

3. 今回の指摘事項

指摘事項としてはなし。